

特集

これからの「在宅」を担う人を育てる

2009年4月より適用となる看護教育の新カリキュラムでは、専門分野の構造的な見直しが行われ、「在宅看護論」はすべての看護師に必要な教育内容として統合分野に位置づけられました。新カリキュラムの方向性についての解説とあわせて、医療福祉の環境が変化するなか在宅ケアを担う人材を独自に育ててきた2つの実践を紹介します。

新カリキュラムにおける在宅看護論の位置づけと今後の方向性 山田雅子

新卒の訪問看護師を育てる 小西優子

介護専門職のための研修システム—定例学習会の実践から 片山蘭子

■特別記事

訪問看護師と医師との連携—事前約束指示の必要性和有効性 川越厚

ストックホルム高齢者ケア研修報告 濱口豊太ほか

60歳からの新人、訪問看護師としての日々をふり返って 小濱友昭

■研究報告

侵襲的人工呼吸療法を行なう患者の在宅療養移行時の退院指導 古瀬みどり

■新連載

訪問看護ステーションインタビュー 木村憲洋／訪問看護の現場をあるく 川越博美・宮崎和加子

■連載

訪問看護時時刻々 石田昌宏／もの忘れを補うモノたち—簡単な道具と機器を利用した認知症患者の日常生活支援 安田清／大牟田発！地域の縁側で認知症ケア 牧坂秀敏／わたしのことをわたしから 三木淳一／在宅で療養するがん患者と家族のためのケアの手引き 福井小紀子／ほんとの出会い 岡田真紀／萌黄色のハンカチーフ 赤川次郎

編集
後記

●12巻最後となる今号のトップを飾るのは“2007年の医療と福祉をふり返って”。開始早々白熱した今座談会ですが、浅川氏の「相部屋を認めるかどうかが議論の最初の分かれ目」という一連の発言をはじめとして、制度の過去から今後までおよぶ討論では目標と現実の差を改めて認識させられ、とても勉強になりました。コムスン問題やその訪問看護との関係については尾崎氏の特別記事をあわせてご覧ください。……富岡
●連載「時間を忘れて」の天方さん、年若い彼女が送信してくれる写真と文章がセピア色めいているのが不思議でした。子ども時代のあれこれ、忘れていた時間を思い出させてくれたページです。「わが憧れの老い」の服部先生、情豊かな、生きいきとした文章とともに紹介される老いのありようは、年齢を重ね、老いを迎えるのも悪くはないかな……という気がしました。読みながら旅をしていたような2つの連載が終わります。……伊藤

訪問看護と介護 第12巻 第12号 2007年12月15日発行(毎月1回15日発行)

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo©2007, Printed in Japan
1部定価1,260円(本体1,200円+税5%) 年ごめり予約購読料13,200円(年間12冊, 消費税, 送料弊社負担)

発行:株式会社 医学書院／代表者:金原 優／販売部:03-3817-5657／社内案内:03-3817-5600

「訪問看護と介護」編集室:直通03-3817-5787 FAX 03-5804-0485 担当:富岡・伊藤・早田

Eメール houmon@igaku-shoin.co.jp 医学書院ホームページURL http://www.igaku-shoin.co.jp

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

【JCLS】<(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本紙の無断複写は著作権法上での例外を除き禁止されています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670, FAX03-3815-8199)の許諾を得てください。本誌掲載論文・記事のタイトル頁最下段に記された「0917-1355/05/¥250/論文JCLS」は、1論文1回複写につき250円要することを明示したものです。これは表示のない論文等にも適用されます。JCLSへのご連絡の際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。